



2018年10月1日

各 位

三重県保険医協会

運動の取り組みについて

協会は、7～9月にかけて三重県議会の全10会派と社会保障分野での要望書を基に懇談を行った。開催日時順に各会派の考えを報告する。

【要望項目】

- 一、三重県福祉医療費助成制度の窓口負担について、窓口無料料の実施に向けて県に働きかけてください。
- 一、現在定期接種化されていないおたふくかぜワクチン、ロタウイルスワクチンについて、県で公費助成を行うよう取り組んでください。
- 一、少子化対策の一環として、産後うつ早期発見と治療に向け、県内全市町で産婦健康診査が実施されるよう県から各市町に働きかけてください。
- 一、妊婦歯科健診について県の公費助成を行うよう取り組んでください。
- 一、学校歯科健診で歯科医院への受診が必要とされた場合の受診券の発行、治療費助成を県に働きかけてください。
- 一、地域医療構想について、地域住民・患者を交えた地域の実情に応じた真の医療提供体制を確保するよう取り組んでください。
- 一、国民健康保険制度の財政運営の県一元化について、地域の特性や受益者の支払い能力に応じた保険料の負担額となるよう取り組んでください。
- 一、医療関連費用にゼロ税率を適用し損税を解消することを国に要請してください。
- 一、望まない受動喫煙をなくす社会を目指すため、受動喫煙防止条例の制定に取り組んでください。

福祉医療費助成制度の充実を求める

【自民党・自民党県議団・鷹山】

子ども医療費助成制度について、窓口無料化、適用年齢の拡充、所得制限なしの要望が高いことは認識している。ただ社会保障費が増大する中で医療費の抑制が大きな課題となると指摘もされている。現物給付化の影響は時間をかけてみれば平準化すると考えている。議論が始まったばかりで対応する市町での議論を待ち、検証していきたい。

学校歯科検診の結果について、みえ歯と口腔の健康づくり条例を行政にどのように反映できているのか気になっていた。学校でのフッ化物洗口の予防の先進例が出てきているが県内では広がっていない。予防の効果がないときには医療費助成も検討していかないといけないと考えている。

【青峰】

国保財政について、高度先進医療の負担も外国人の治療目的の利用が影響となる。

受動喫煙防止について、施設側でも分煙が進んでいる。国体もあるので条例化も進んでいくと思う。

地域医療構想では、救急車の配置を変更したことで救急搬送のタイムラグが短くなった。離島からの救急搬送が問題となっている。医師不足で夜間無医村の対策が求められている。市立診療所は地域医療振興協会が指定管理を受けて医師を派遣してもらうことになった。

【大志】

子ども医療費助成制度について、子育てをしやすい社会のために実現していきたいが、財源の話が中心となっている状況だ。

学校歯科検診後の受診について、受診券を発行することで受診率が上がるのかシステムを考えないといけない。地域医療構想では、実態と県の目指す姿に大きな乖離がある。実情に合わせて段階的な対応が必要である。

受動喫煙防止条例について、この機会を逃してしまうと制定できないように思う。要望項目は賛同できるところが多いので、しっかり対応させていただく。

【日本共産党】

子ども医療費助成制度は、所得制限のない助成が必要である。レセプト方式の導入で他県では窓口無料化が進んだと聞いている。

ワクチン接種助成では、他県の取り組み状況の資料があると要請しやすいと考える。

学校歯科検診の結果について、貧困や虐待、ネグレクトの発見材料にもなるので、学校も神経を使わないといけない。

地域医療構想について、地域医療構想調整会議が十分機能するようにすべきだと求めている。

国保財政運営一元化で今後の見通しで保険料が上がっていくことが懸念されると発言したが、上ることは考えられないと反論された。

【新政みえ】

子ども医療費助成制度について、対象拡大は考えていかないといけない。鈴鹿市をはじめとして窓口無料化が始まっているので、コンビニ受診など増減を見ながら、論文の成果で示されれば、要望していくこともある。

妊婦歯科検診について、妊婦の口腔ケアを県内でも実施している市町としていない市町に分かれている。少子化対策の一環として、県として取り組みということは正にそのとおり。

学校歯科検診では受診券の発行などについて議論を進めていく必要がある。

国保財政運営一元化について、都道府県の一元化の部分も制度が始まったところであり、注視していく必要がある。払える保険料にと要望もいただいているが、一方で制度の維持という部分で見ると、制度は加入者が負担してくれる原則義務がある。制度を進めながら考えていきたい。

【公明党】

子ども医療費助成制度について、窓口無料化は政策に掲げている。持続可能なものとするためにひとり親家庭を対象として風穴をあける提案をした。合わせて財源確保策を提案している。

ワクチン助成で予防ができるのであればそれがよい。産後うつ対策については、市町で保険師を充実させて訪問活動する。

妊婦歯科検診について、妊婦の口腔ケアは重要と認識している。

学校歯科検診の結果について、未受診は地理的な問題もあるのかもしれない。学校歯科検診でフッ化物洗口の推進をすすめていきたい。

地域医療構想について、地域医療構想の推進状況により医療介護総合確保基金の獲得に影響がでると考えている。

【草の根運動いが】

学校歯科検診の記事をみて、伊賀市に問い合わせた。結核は法定伝染病であるので報告義務があるので受診確認はするが、歯科検診後の受診についても同様のシステムをつくるべきだ。3月議会一般質問で教育長に学校歯科検診の結果の新聞記事についてどう思うか質問したところ、教育長から重く受け止めていると答弁があった。

子ども医療費助成制度について、医療費窓口負担も小学6年生まで無料化になるとよいと考えている。関西からの移住者が窓口負担を求められてびっくりしたと話を聞く。

【能動】

受動喫煙防止について、飲食店の問題だけである。禁煙にこしたことはないが、あまり規制を厳しくすると来店しないことも危惧している。

子ども医療費助成制度について、亀山市は中学校の無償化も早くに実施し、後から県が無料化を追っかけてきた。窓口無料化にしても、子どもたちが借金を負っていくことになっては元も子もない。財源が回れば反対する

ようなことはない。

以 上